

Hello, Kids!

特集：文字や音声の気づき



教室英語
だけで会話を
しています。



大分大学教育学部附属小学校

「気づき」を促す授業の留意点

卯城 祐司(筑波大学教授)..... 2

文字や音声への自然な気づきについて

榎村 雅子(千葉県柏市立柏第八小学校教頭)..... 4

英語がわかったと実感できる授業

折原 俊一(千葉大学教育学部附属小学校教諭)..... 5

私の自慢の手づくり教材

伊藤 摂子(東洋大学助教)..... 6

秦 潤一郎(大分大学教育学部附属小学校教諭)..... 6

お悩み相談

..... 7

SAY "HELLO" WITH ALISON!

根本 アリソン(宮城教育大学特任准教授)..... 8

特集：文字や音声の気づき

「気づき」を促す授業の留意点

1. 「気づき」が果たす役割

私たちが英語を習得するプロセスは、諸説あるものの、一般的に以下のように考えられています。まず、①膨大な量の英語に耳や目でふれ(「インプット<input>」)、②それらに注意を向けることによって「気づき<noticing>」、③その情報の意味を「理解<comprehension>」し、④これまで学んできた知識と照らし合わせて試してみよう(「内在化<intake>」)、⑤使えるように自分のものとし(「統合<integration>」)、⑥実際に使ってみよう(「アウトプット<output>」)という流れになります。

大勢の人が集まっている街中やパーティーなどではさまざまな話し声がただの雑音にしか過ぎませんが、まわりの誰かが自分の名前や好きなアイドル、趣味の話をした途端、耳に入ってきます。これは「カクテルパーティー効果<cocktail-party effect>」と呼ばれる現象です。このような「選択的注意」は常に行われ、英語を習得するうえでも「気づき」が重要な役割を果たしています。

2. 教室の中での「気づき」

以前中学高校では、文法規則ばかり教える文法訳読式の授業が行われていました。そのせいか、一時、「形式ではなく意味こそが大事」というコミュニケーション中心の授業の流れの中で、形式があまり重視されないことがありました。しかし今は「意味中心のやりとりが行われている中で、形式に注意が向くことも大事である」と考えられています。例えば教室で、ALTの先生がいくらたくさん英語を話しても、児童がその形式に気づいていないと、さほど内在化されないと考えられます。

授業の中で私たち教員が関わることができるのは、どのようなインプットを与えるかという部分と、児童のアウトプットへのフィードバックの部分に限られます。

現在、教室の中で「気づき」を促すために、もっとも注意が割かれているのが「インプット強化」でしょう。例えば、英語でやりとりする中で児童に学習させたい言語形式だけ、ゆっくり強く発音してみたり、黒板に表現を



貼る際、ターゲットとなる文字の色を変えて目立つようにしてみたりと、児童の注意を引く試みです。

文構造や音声への気づきを促すインプットでは、次のような点に留意することが大事だと考えられます。まず、①あくまで「意味中心のやりとりが行われている中で」文構造や音声を示すこと。つまり、その形式だけを切り取って、単調に提示しないこと。そして、②児童が気づく機会を奪わないこと。多くの授業で、CDを聞かせてすぐに学級担任がその英語を口にし、リピートさせる場面を目にします。まずは英語の音をそのまま、児童の耳に残したいものです。また、③必要に応じて、「違い」の対比が明確になるようなペアを提示すること。例えばbigとlargeの使い方をハンバーガーと飲み物への使い方ですと、その違いがより鮮明となります。最後に、④十分なインプットを与えること。文構造や音声を一度示すだけで、すぐに「気づき」を求めず、何度も提示すること。あるいは、絵本の読み聞かせで、先生が文字をただなぞるだけの期間を経るなども大切です。

3. 挑戦する児童の背中を押して

児童は新たな英語表現に接すると、場面や状況から「この英語はこのように使うのでは」と仮説を立てて、それを実際に使ってみます。使い方が違えば修正して、また使ってみます。「気づき」の多い児童ほど、どんどん挑戦しますが、結果として「誤り」がたくさん生まれることもあります。しかし、それは児童が前向きに英語に取り組んでいるから生まれる「誤り」です。児童が失敗を恐れずに試行錯誤し、何度も挑戦できるような教室づくりと、その挑戦を支え、「気づき」を促す学級担任の温かいフィードバックが求められます。

■主な参考文献

Gass, S. (1997). *Input, Interaction, and the Second Language Learner*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

Gass, S. (2013). An integrated view of second language acquisition. In S. Gass, J. Behney & L. Plonsky (Eds.), *Second Language Acquisition: An Introductory Course* (4th edition) (pp. 497-519). New York, NY: Routledge.

文字や音声への自然な気づきについて

千葉県柏市立柏第八小学校教頭 榎村 雅子



1. 文字と意味、音のマッチング

4月に入学した1年生は、算数ではじめに数について学習します。ブロックをひとつ机に出し、それを「いち」と言い表し、「1」と書くことを学びます。入学前にさまざまな場面で聞いたり使ったりしていた数について、概念と音と記号(数字)を一致させる作業を行います。

2. 自然な気づきを促す工夫

ことばの学習でも、「聞いたことがある」「見たことがある」状況を経て文字を学べば理解しやすいことは明らかです。そのような状況づくりが「素地」づくりになると考え、今まで活動に取り入れてきたのは「英語カルタ」です。絵柄の下に英単語も入っていますが、絵と一緒に全体像として「見たことがある」状況づくりにとどめます。それでも、何度も目にしたり、読み札の英文を聞いたりするうちに、絵と音と文字をマッチングさせ、いろいろと気づくようになります。例えば、「KでなくCから始まる(cat)」といったローマ字表記との異同や、カタカナ語との発音の違いなどが挙

げられます。日本語と英語では音韻が違うので、教師は英語にカナを振ることはしませんが、児童は聞こえた音をカナに置き換えようとしてうまく表せないことに戸惑います。しかしその戸惑いこそが重要な気づきであるとして賞賛し、学びのおもしろさにつなげていきます。

高学年の児童が興味を持って何度もカルタに取り組むようにするには、学習過程も重要です。単にカルタとして使うだけでなく、並べ替えや3ヒントゲームなどの違った使い方をしたり、仲間と協働で取り組んだり、知的好奇心を刺激しつつ意欲を持続できるように工夫します。

以前は、極端に文字を遠ざけたり、ALTにわざと不自然な英語を使ってもらったりする風潮もありました。しかし、それでは児童に自然な気づきは生まれません。活動を通して自然に英語にふれる機会を持つ中で、各々に学びが生まれると考えます。

英語がわかったと実感できる授業

千葉大学教育学部附属小学校教諭 折原 俊一



これまで、英語の音声に慣れ親しめるように、子どもたちが楽しめる活動をベースにして、くり返し聞かせる必然性のある授業を心がけてきました。しかし、単語レベルまたは定型フレーズで答えることはできても、「こういう時はどう言うの?」という子どもたちの思いに近づけられるような、言語としての積み重ねには程遠い内容で終わってしまいます。小学校段階でも、英語で話せる、考えて伝えられるという自信につながるような音声や文構造への気づきや理解を、スムーズに教室内で再現していきたいと考えます。そのためには、まず、示した音声・単語が何を表しているのか、英文の変化によって伝えることがどう変わるのかを、子どもたちが感じとることのできる仕掛けが必要になります。具体的には、状況や場面を想定しやすい絵本やJTEとALTのインタラクション、ICTを使った視覚的提示等が有効ではないでしょうか。

<音と意味への気づきを促す例>

- ・アニメのキャラクター事典を示して、その特徴を紹介しながら人称代名詞 She と He の違いに気づかせる。
- ・数によって名詞が複数形になる変化を、短

いお話に出てくる登場人物のマグネット式ペーパーサートの増減で示す。

- ・ on, in, under 等の前置詞がどの位置を表すのか、電話越しに探し物をする寸劇を通して、見つけ出した場所で示す。

<文構造への気づきを促す例>

- ・「友だちのここが嫌いだけどここが好き」とくり返し出てくる絵本で、I like と I don't like の違いを考えさせる。
- ・疑問詞を使う必要性を体感させるために、“Is your ball red?” と色を変えながら質問させ、最終的に “What color is your ball?” と何色かを聞く場面を提示していく。

これらの導入的活動だけでは、音や使用語彙と意味がまだ一致しない児童も見られます。そこで、徐々に理解につながっていくような、音を聞いて判断し操作する活動を次に用意しておきます。そうすることで場面変化と音声・表現の変化が体験的に結びつけられていくことでしょう。

私の自慢の『手づくり教材』

凝った教材よりわかりやすい教材を

東洋大学助教 伊藤 摂子



おすすめ基本教材は、児童にとってわかりやすく、教員の作成負荷があまり大きくない、くり返しさまざまな活動に用いることができる単純な教材です。その一例として、まずはことばの紹介やことばに慣れ親しむことができるように、絵カードの作成があります。*Hi, friends!*でも使用されている絵を活用すると、語彙への慣れや親しみ度が上がります。活動で提示する大カード、ゲームで用いる

小カードは同じ絵を用い、児童の混乱要素を少なくすることも大切です。手づくりのよい面は、指導目標に沿わせ活動内容に合わせて必要な種類・枚数を準備するのが可能なことです。写真のように表紙板目を使用する場合は透明テープで上から補強して作成するか、ラミネートの場合は透けないように色画用紙等を裏に重ねて作成するとよいでしょう。



教室英語の効果的な活用

大分大学教育学部附属小学校教諭 秦 潤一郎



文部科学省が提唱しているように、本校でも児童の教室英語 (Classroom English) の効果的活用を目指して研究を進めています。そこで、「反応」や「お願い」、「あたたかい言葉」など、種類ごとに教室英語掲示を作成し、すべての教室に掲示しています。毎時間のWarming upでくり返し練習することはもちろん、「教室英語だけで会話をしてみよう」と呼びかけ、ABC songや森のくまさんの

曲に教室英語を当てはめて(いわゆる替え歌)、みんなで楽しく教室英語に親しめるようにしました。この教室英語の活用により、“Of course.”や“Really?”など、基本表現の間にも英語があふれるようになり、子どもたちの会話もより自然で生き生きとしたものになりました。今後も教室英語の一層の活用を目指し研究を続けていきます。

お悩み相談

Q

「小学校英語を通して、子どもたちにどのような力がつくような指導をすればよいのでしょうか。」

A

情報化、グローバル化の進展が著しい現代において、児童と英語のお付き合いは生涯続きます。そうした未来を見据え、小学校英語では英語学習に対する持久力と粘り強さを育てる指導をしたいと考えます。小学校で楽しかった外国語活動が、中学校で「お勉強」となると、学びが立ち遅れる子どもも出てきます。しかし英語を使える喜び、意義、価値を小学校のうちから感じていると、英語学習が単なる勉強ではなくなり、学びに対して目標が見え、持久力と粘り強さが生まれます。

千葉大学教授 西垣 知佳子



Q

「英語の発音に自信がありません。どのように指導をすればよいのでしょうか。」

A

音の「指導」をしようと思うととても大変です。必要なのは発音の指導ではなく、恥ずかしながら堂々と英語を使う態度を示すことです。子どもに英語に対する積極的な態度をつけてもらおうと考えれば、その態度を教師が進んで示すことは当然のことですね。日本人の英語発音でも十分コミュニケーションできます。どうしても正しい発音を示さないといけない場合は、CDやALTに任せて、自分も子どもと一緒に発音練習をしましょう。とはいえ、今後のためにも少しずつ自己研鑽は行った方がよいでしょう。1日5分程度、週に3回くらいから試してみてください。

福岡教育大学教授 中島 亨





SAY "HELLO" WITH ALISON!

■ALTとの会話術

新学期が始まると、新しいALTの先生がやってきますね。そこで最初の授業では、ALTに一方向的に自己紹介をさせるより、担任へのインタビュー形式にしてみたいと思いませんか？児童にとって自然な会話のやりとりや所作を学ぶよい機会になります。

Hi, everyone.

This is our (new) ALT. I'm going to interview her [him] now, so please listen carefully.

Could I have your name, please?

I'm sorry, could you say that again more slowly?

How do you spell your name, please?

Could you write it on the board for us?

Do you have a nickname? What should we call you?

また担任が英語でALTとコミュニケーションを取ることは良好なパートナーシップへの第一歩となり、その姿は児童にとって素晴らしいロールモデルになると思います。

Can I ask you where you are from?

Where in the US? Which state?

Which county in the UK are you from?

Where is that on this map?

What is your hometown [state/county] famous for?

Could you show us some photos, please?

またALTが質問に回答した後は、担任から適切なリアクションを取ることも大切です。

Wow, that's interesting! Really, I didn't know that. I'd like to visit sometime.

この時点で児童からの質問を受けつけると、コミュニケーションの輪は、先生同士からクラス全体へと自然に広がるはずですよ。

(宮城教育大学特任准教授 根本 アリソン)

研究会紹介

みなみちくで 南筑後外国語 教育研究サークル

本サークルは、平成21年度に福岡県南筑後地区の自主研修サークルとして発足し、中学校英語科、小学校の外国語活動に取り組んでいる先生方を会員として活動しています。毎月1回土曜午後の定例学習会では、回ごとのテーマに沿って、実践報告や模擬授業等を行い、学習しています。

また、年に2回、全国から著名な先生方をお招きした特別講演会も行っています。前回3月は胡子美由紀先生(広島市立井口中)、今夏は7月31日に太田洋先生(東京家政大学)に「意欲と力を高めるフィードバックの与え方」をテーマにご講演いただきます。県内外、校種を問わず、参加を歓迎しております。

これからも、子どもにとってつながる外国語(英語)教育のために、小中高連携を目指し、活動を続けていきます。

福岡県南筑後外国語教育研究サークル
会長 境 宏文
(柳川市立三橋中学校校長)

小学校英語情報誌

Hello, Kids!

Vol.7-1 (通巻21号)

平成28年6月24日印刷 平成28年6月30日発行 編集兼発行人 大熊 隆晴

印刷所 株式会社平河工業社 〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-9

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業)、(5684)6118(販売)、(5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西 6-11 札幌北辰ビル 8階 ☎011(231)0403
東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-3-10 仙台TBビル 4階 ☎022(742)1213
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町 14-4 星ヶ丘プラザビル 6階 ☎052(789)1741
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町 2-1-0-1 6 ☎06(6531)5782
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港 2-1-5 FYCビル 3階 ☎092(733)0174